

# 2019年3月期 第2四半期決算説明会

2018年10月30日

株式会社SCREENホールディングス  
代表取締役 取締役社長 最高経営責任者 (CEO)

垣内 永次

## 資料取り扱い上の注意

- ・本資料および口頭にて提供する業績予想は、当社が発表日現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績などは様々な要因により大きく異なる可能性があります。
- ・本資料に記載しております数字につきましては、単位未満切り捨てで処理しております。比率は四捨五入しております。
- ・本資料では、例えば、「FY2019」と示す場合、2018年4月1日～2019年3月31日の会計期間を表します。

## 本日のポイント

- ✓ 自然災害の影響により、上期の売上、営業利益が7月予想を下回る  
→SE、121億円の売上スライドが発生
- ✓ 通期予想に修正はあるも、過去最高売上、営業利益  
ならびに、6期連続の増収増益を目指す

# アジェンダ



1. FY2019 上期 連結業績
2. FY2019 上期 セグメント別業績概況
3. 財務状況
4. FY2019 業績予想
5. 最近の取り組み

FY2019上期 連結業績 (前年同期比)

(億円)	FY2018						FY2019				
	1Q	2Q	上期	3Q	4Q	通期	1Q	2Q	上期	前上期比	
売上高	729	808	1,538	703	1,152	3,393	725	975	1,700	162	10.6%
営業利益	73	95	169	68	189	427	51	100	151	▲17	▲10.2%
営業利益率	10.1%	11.8%	11.0%	9.8%	16.4%	12.6%	7.0%	10.3%	8.9%	-	▲2.1pt
経常利益	75	89	164	65	183	413	51	101	153	▲11	▲7.1%
親会社株主に帰属する 当期純利益	51	55	106	43	134	285	35	60	95	▲10	▲10.1%

## SE、FY2019上期：自然災害による業績へのインパクト

### ■前年同期比

(億円)	FY2018	FY2019	差異	差異の理由
売上高	998	1,128	130	メモリー向けが増加
営業利益	145	116	▲29	(+) 増収 (-) 変動費率の上昇：自然災害に見舞われ、一時的な調達混乱により、コスト改善活動が一部下期にずれ込んだ (-) 固定費の増加：海外拠点の強化や増産対応に伴う人件費増加

### ■7月発表予想比

(億円)	7月発表	上期実績	差異	差異の理由
売上高	1,250	1,128	▲121	自然災害による出荷の遅れ
営業利益	200*	116	▲約80	(-) 減収：上記のとおり (-) 変動費率の上昇：自然災害に見舞われ、一時的な調達混乱により、コスト改善活動が一部下期にずれ込んだ (+) 固定費圧縮

\*セグメント別営業利益予想につき、5億円刻みの「約」表記

FY2019上期 連結業績

(億円)	FY2018						FY2019				
	1Q	2Q	上期	3Q	4Q	通期	1Q	2Q	上期	前上期比	
売上高	729	808	1,538	703	1,152	3,393	725	975	1,700	162	10.6%
SE	465	532	998	455	818	2,271	471	657	1,128	130	13.1%
GA	108	139	248	118	168	534	114	124	238	▲9	▲3.7%
FT	129	99	228	91	132	452	103	150	254	25	11.1%
PE	23	33	57	34	29	121	32	39	71	13	24.1%
その他および調整	2	3	5	4	3	12	2	4	7	1	33.6%
営業利益	73	95	169	68	189	427	51	100	151	▲17	▲10.2%
営業利益率	10.1%	11.8%	11.0%	9.8%	16.4%	12.6%	7.0%	10.3%	8.9%	—	▲2.1pt
SE	64	81	145	56	160	363	37	78	116	▲29	▲20.2%
GA	1	10	12	3	14	30	2	2	4	▲8	▲65.0%
FT	11	7	18	4	22	45	9	19	28	9	52.6%
PE	0	3	3	6	▲0	10	5	5	10	6	170.8%
その他および調整	▲4	▲7	▲11	▲2	▲8	▲22	▲3	▲4	▲7	3	—
経常利益	75	89	164	65	183	413	51	101	153	▲11	▲7.1%
親会社株主に帰属する 当期純利益	51	55	106	43	134	285	35	60	95	▲10	▲10.1%

SE：半導体製造装置事業

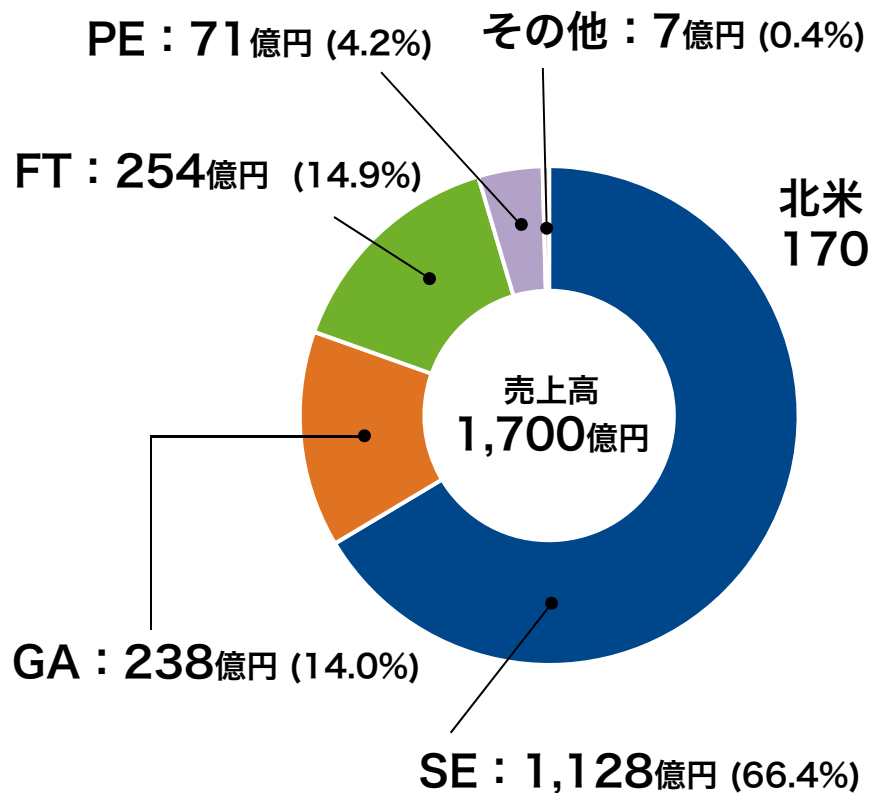
FT：ディスプレイ製造装置および成膜装置事業

GA：グラフィックアーツ機器事業

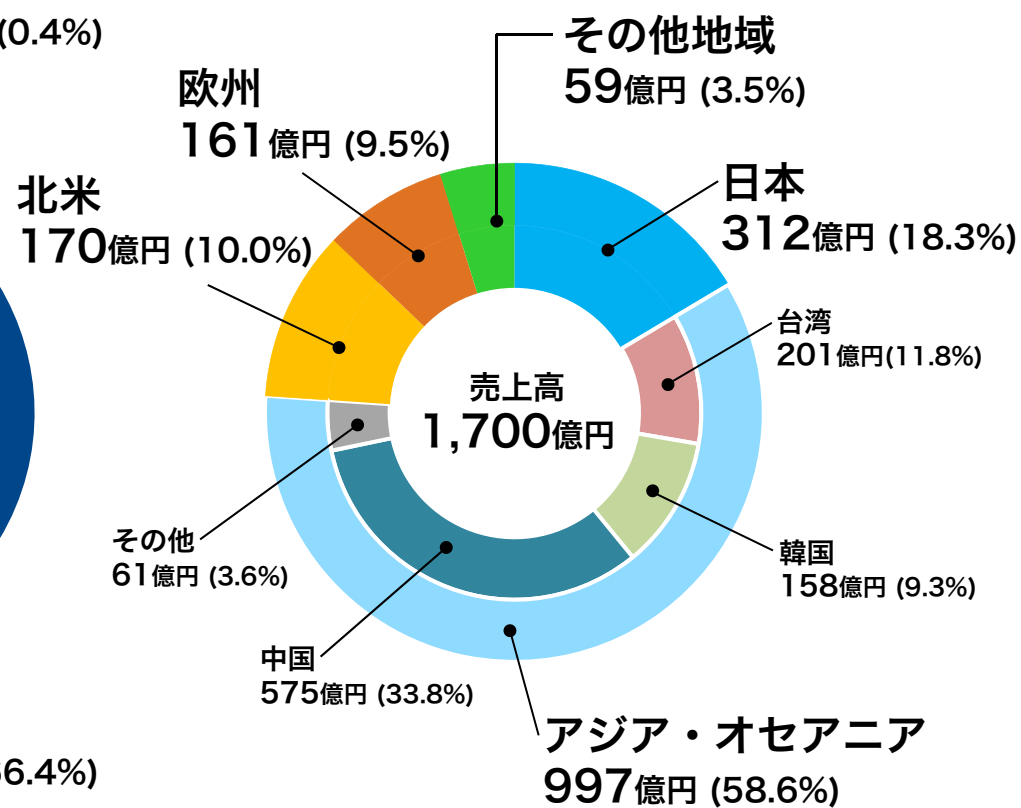
PE：プリント基板関連機器事業

FY2019 上期 連結業績

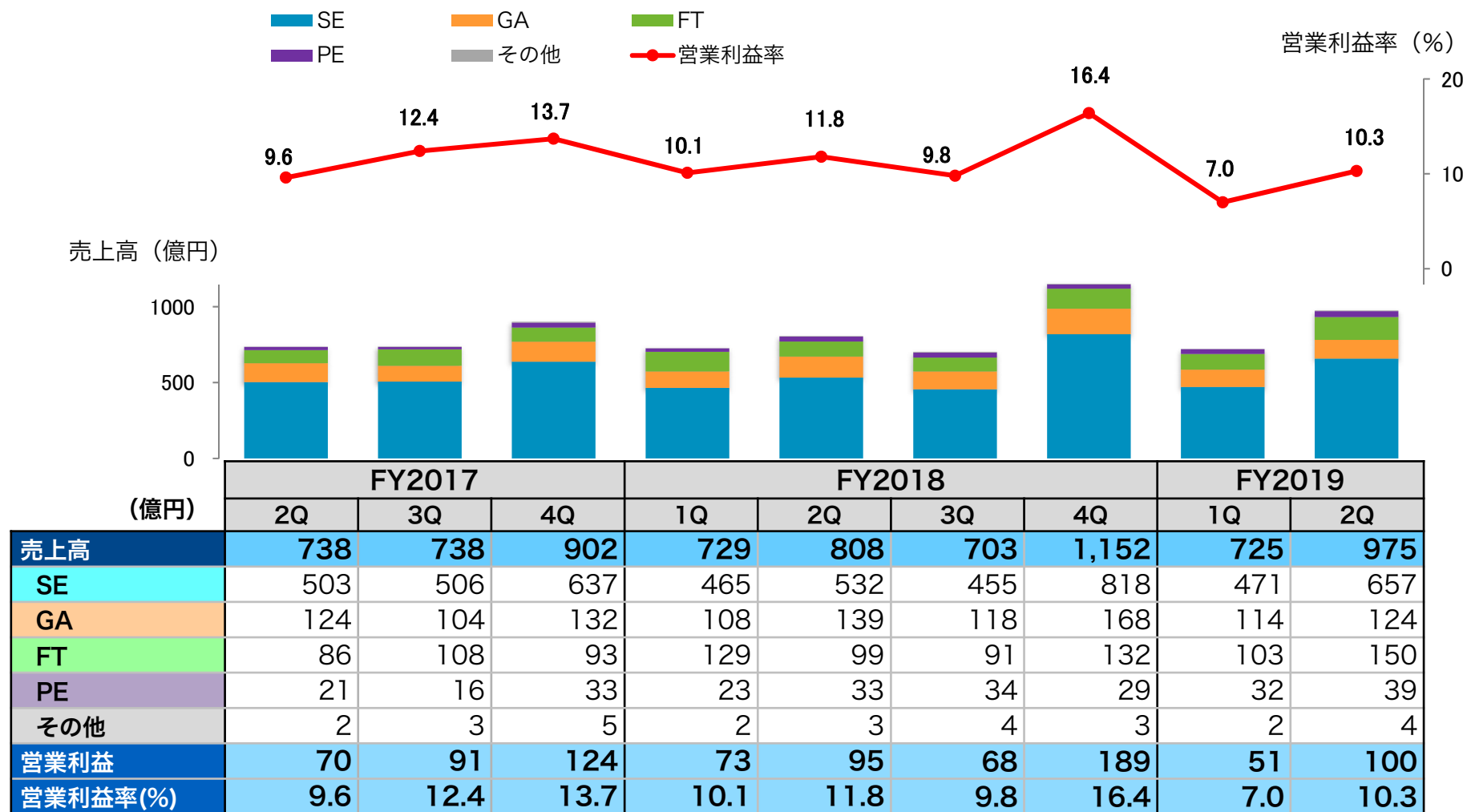
■セグメント別売上高



■地域別売上高

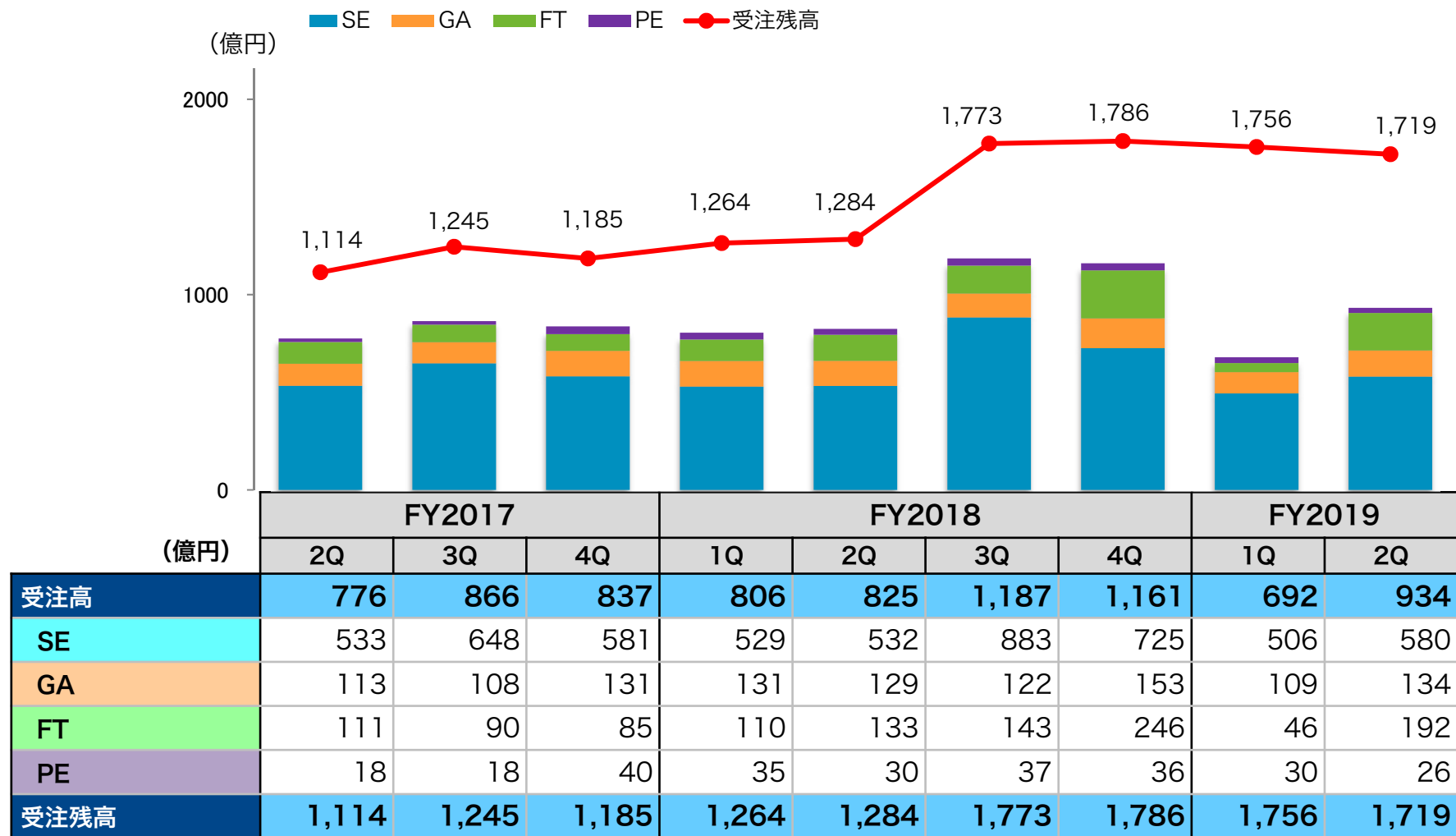


## 連結売上高/営業利益の四半期推移





連結受注高/受注残高の四半期推移



## セグメント別業績概況&lt;SEセグメント&gt;

前年同期比 (億円)	FY2018	FY2019	増減	
	上期	上期		
売上高	998	1,128	130	13.1%
営業利益 営業利益率	145 14.6%	116 10.3%	▲29 ▲4.3pt	▲20.2%

前四半期比 (億円)	FY2019	FY2019	増減	
	1Q	2Q		
売上高	471	657	185	39.3%
営業利益 営業利益率	37 8.0%	78 12.0%	41 4.0pt	109.4%

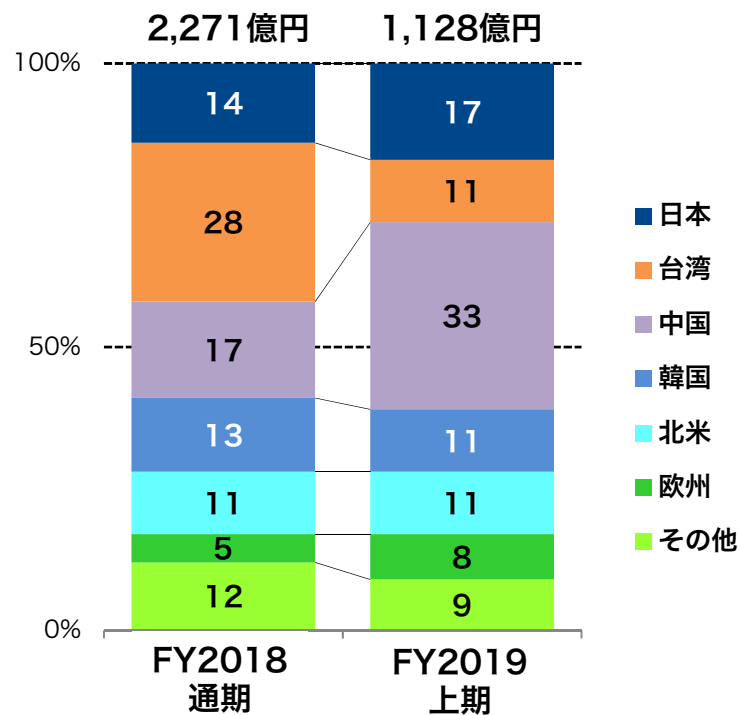
## 概況

- ・ 上期、前年同期比、ファウンドリー向けは減少するもメモリー向けは増加、ロジック向けも堅調に推移し、増収は確保したものの、自然災害の影響などもあり減益となった
- ・ 下期については、ファウンドリー投資の回復を見込んで、前年同期比で増収増益を目指す

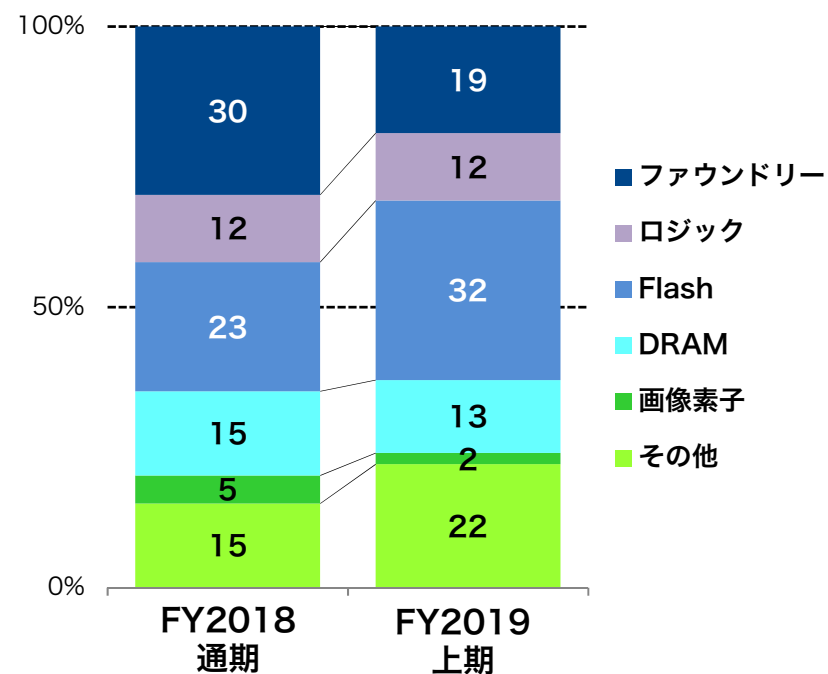
## SE市場見通しと取り組み

- ✓ **短期的な微調整はあるも、CY2018~2019WFEの市場成長の見方に変更なし（\$50Bnレベル）**
- ✓ **メモリー：一部に投資調整が見られるものの、DRAMを中心に堅調を維持**
  - 投資タイミングにタイムリーに対応、SU-3300のさらなる浸透を図る
- ✓ **ファウンドリー/ロジック：微細化、量産投資が活発化**
  - ファウンドリーは投資回復、ロジックは投資継続を見込む。
  - 最先端ラインに対しては、当社の全製品ラインナップを提案し、拡販に注力
- ✓ **IoT関連の投資は引き続き好調**
  - SiCのパワー系半導体、MEMS、電子部品向け引合いが旺盛。
  - 200mm対応装置を中心にフレキシブルな提案でさらなる受注拡大を図る
- ✓ **中国市場：新興ローカル顧客追加投資（CY2019~）**
  - メモリーを中心に期待。引き続き高シェアを維持していく

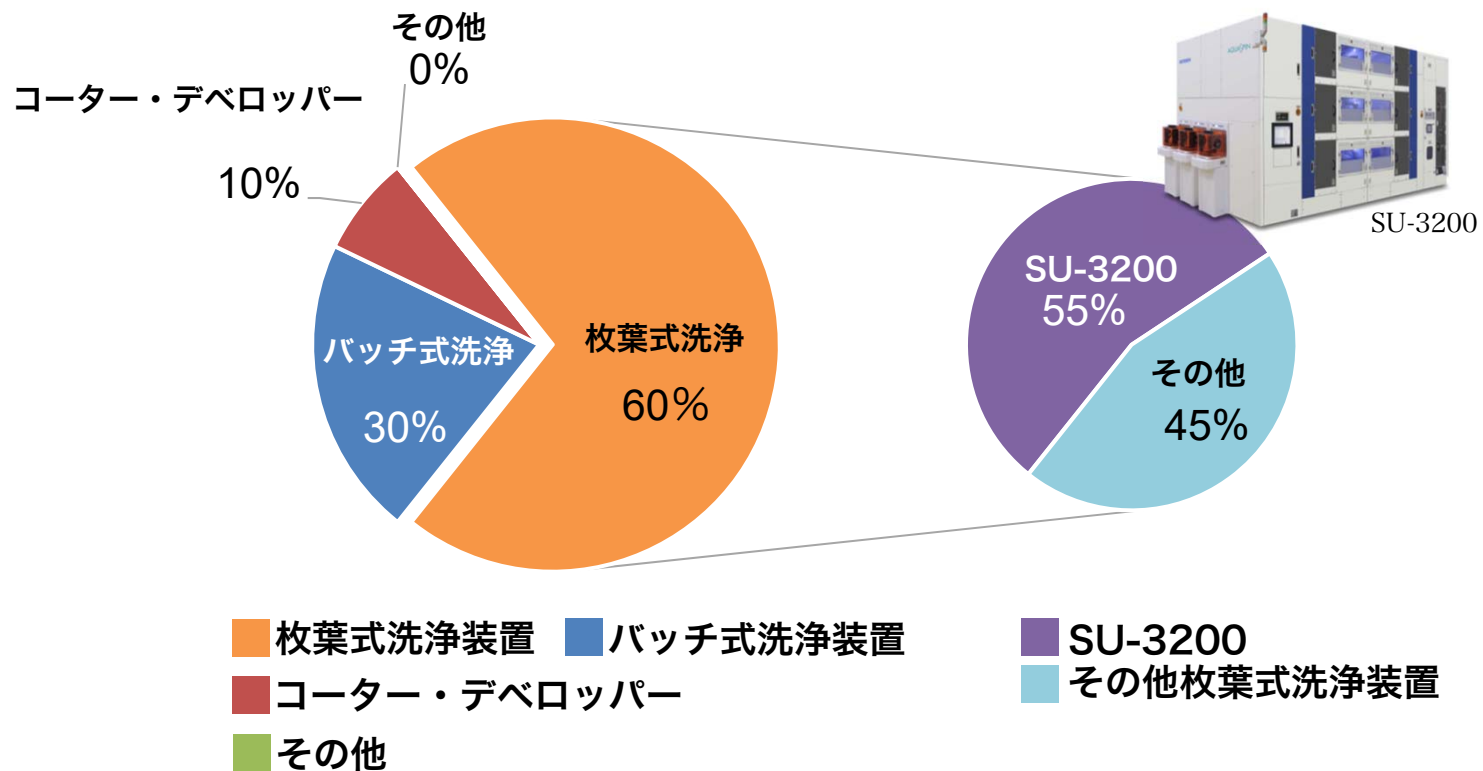
■連結・地域別・売上高比率  
(仕向地ベース)



■単独・アプリケーション(デバイス)別  
・売上高比率



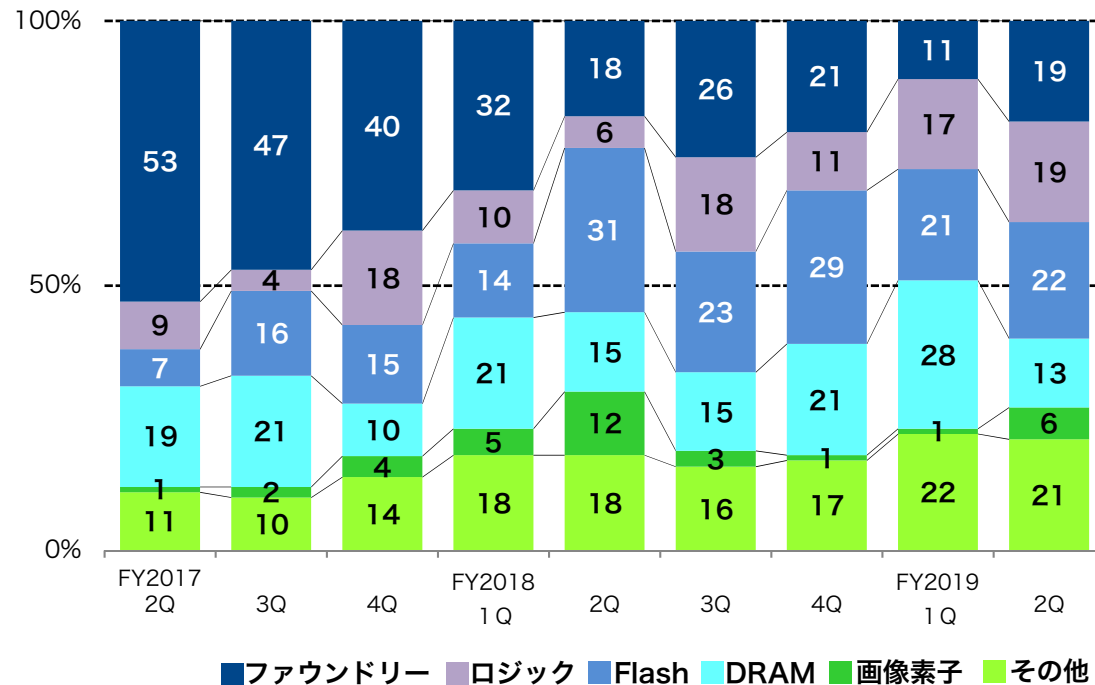
■ 単独・洗浄装置 製品別売上高比率 (FY2019 上期)



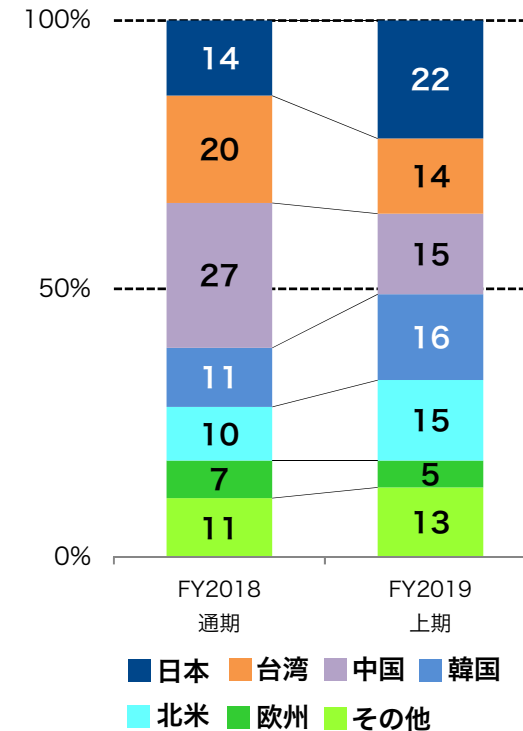
※上記比率は、5%刻みの「約」表記

単独・受注高比率

■アプリケーション（デバイス）別・四半期推移



■地域別



- ・メモリーがやや減少するも引き続き高いレベル。ロジックは堅調、ファウンドリーも回復基調で580億円を受注
- ・今後は、ロジック、ファウンドリーの伸長を中心にメモリーも一定量の投資継続を予想

## セグメント別業績概況 &lt;GAセグメント&gt;

前年同期比 (億円)	FY2018	FY2019	増減	
	上期	上期		
売上高	248	238	▲9	▲3.7%
営業利益 営業利益率	12 5.2%	4 1.9%	▲8 ▲3.3pt	▲65.0%

前四半期比 (億円)	FY2019	FY2019	増減	
	1Q	2Q		
売上高	114	124	9	8.4%
営業利益 営業利益率	2 2.0%	2 1.7%	▲0 ▲0.3pt	▲5.8%

## 概況

- ・ 上期、前年同期比、PODの海外販売ルート売上、および、インク売上が増加する一方で、CTPやOEMなどの国内販売が減少し、減収減益
- ・ 今後、PODとインクのさらなる販売強化を図りつつ、収益改善を目指す  
→但し、下期は、PODのOEMの売上が減少すると予想

## セグメント別業績概況 &lt;FTセグメント&gt;

前年同期比 (億円)	FY2018	FY2019	増減	
	上期	上期		
売上高	228	254	25	11.1%
営業利益 営業利益率	18 8.2%	28 11.2%	9 3.1pt	52.6%

前四半期比 (億円)	FY2019	FY2019	増減	
	1Q	2Q		
売上高	103	150	46	44.8%
営業利益 営業利益率	9 8.7%	19 12.9%	10 4.2pt	114.0%

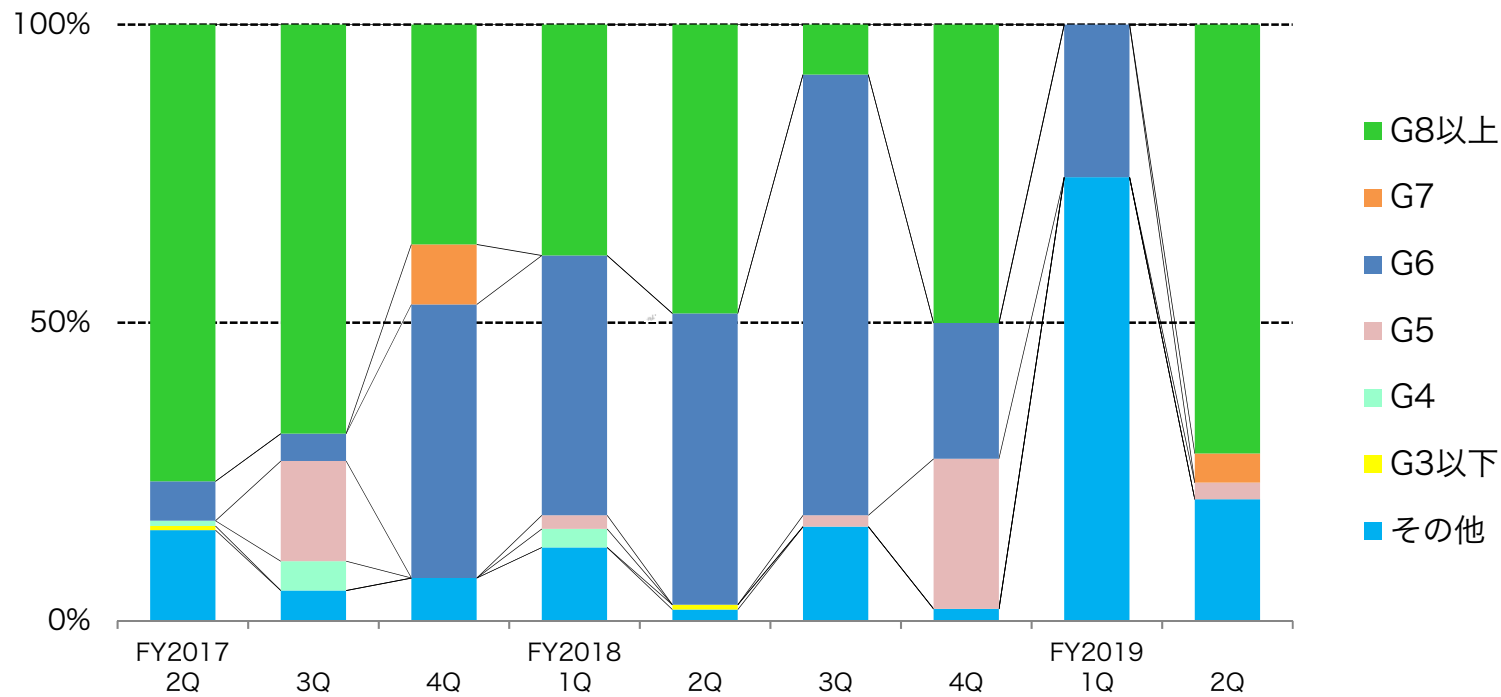
## 概況

- ・ 上期、前年同期比、大型用（中国・台湾向けLCD）、および、中小型用（中国向けOLED）が増加して増収増益
- ・ 下期、LiB関連を中心とする新規事業（成膜事業関連）領域での収益改善を図る



単独・受注高比率

■製品サイズ別・四半期推移



- ・ 2Qの連結・受注高（192億円）は、G10.5中心。新規事業関連は20%程度
- ・ 下期は、G10.5、新規事業、OLED（中国中心）などの受注を見込む

## セグメント別業績概況 &lt;PEセグメント&gt;

前年同期比 (億円)	FY2018	FY2019	増減	
	上期	上期		
売上高	57	71	13	24.1%
営業利益 営業利益率	3 6.8%	10 14.9%	6 8.0pt	170.8%

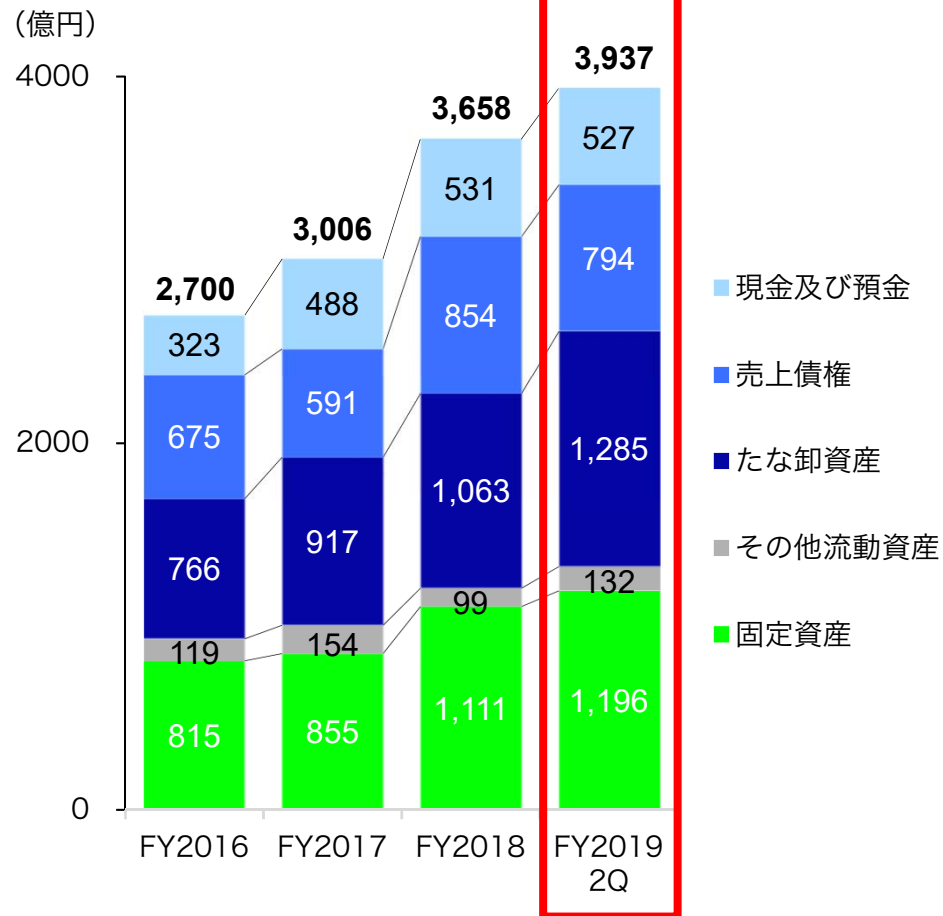
前四半期比 (億円)	FY2019	FY2019	増減	
	1Q	2Q		
売上高	32	39	6	20.7%
営業利益 営業利益率	5 16.3%	5 13.6%	0 ▲2.7pt	0.9%

## 概況

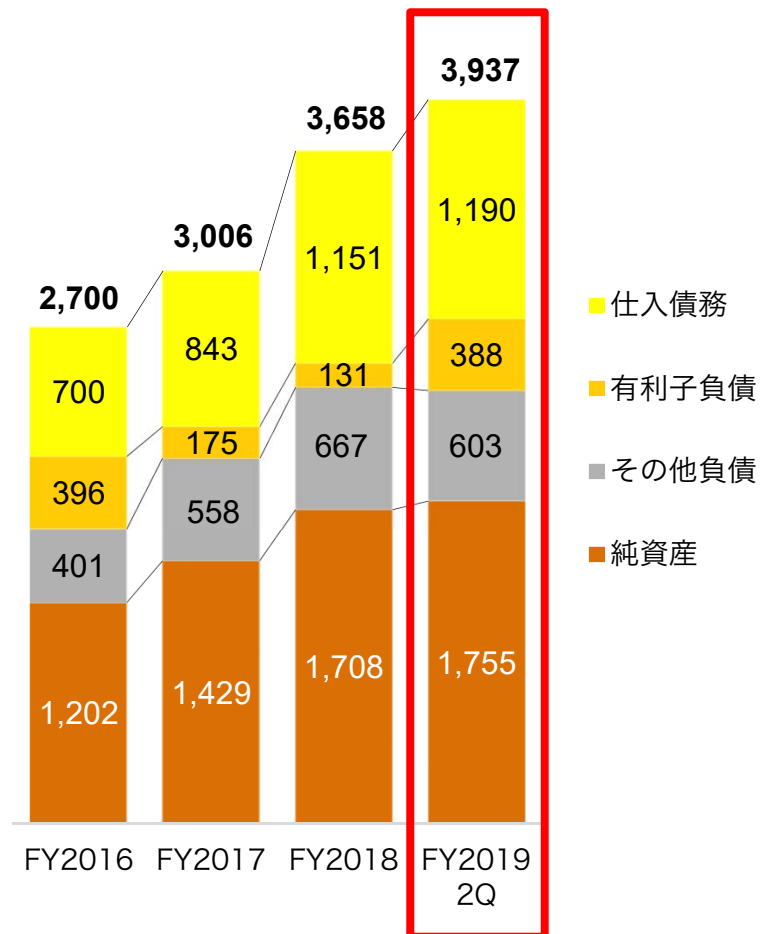
- ・ 上期、前年同期比、台湾向けを中心に直接描画装置の売上好調により増収増益
- ・ スマホ向け投資は一旦落ち着くも、CY2019は、車載用や5G用の需要増加を見込む

連結貸借対照表

資産



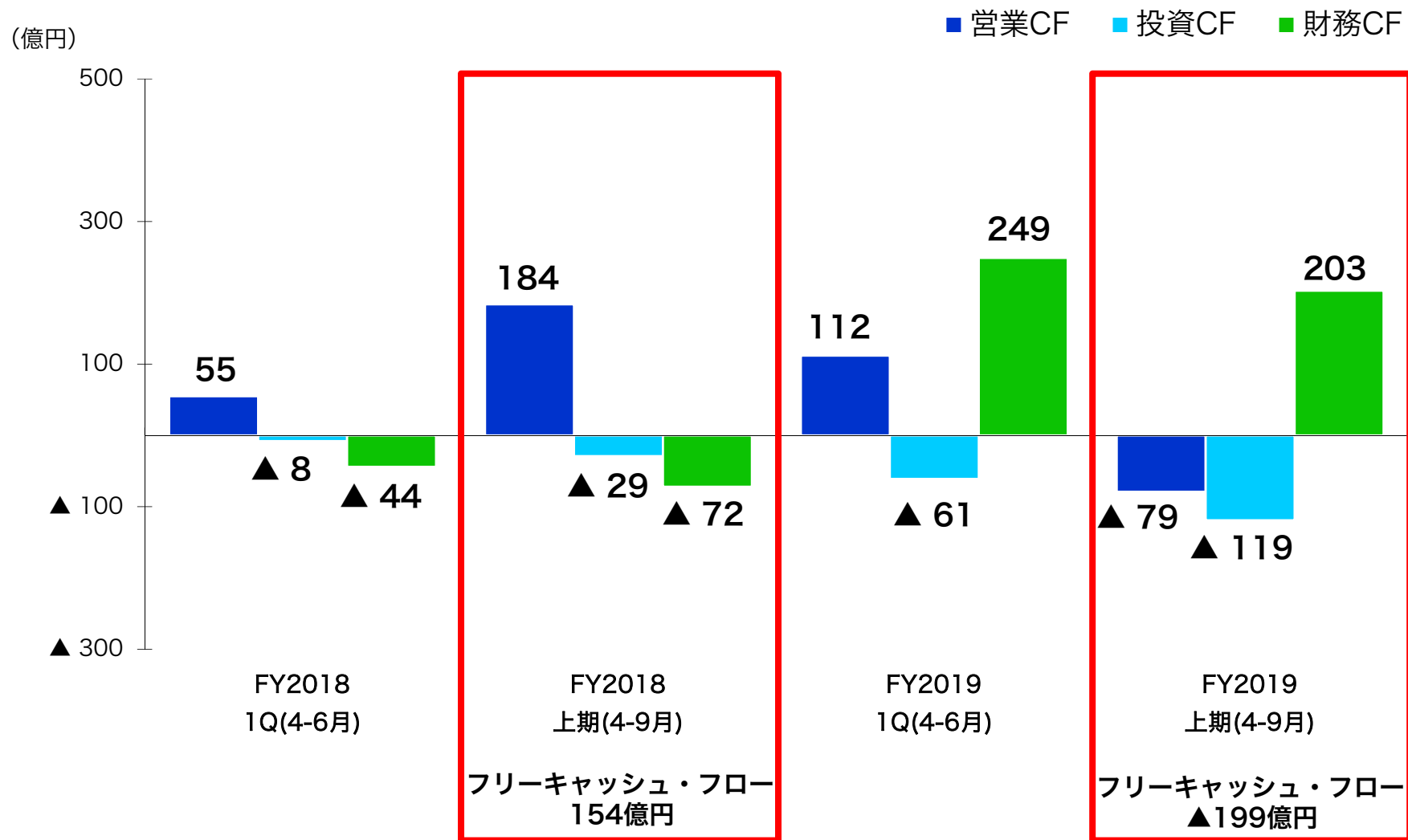
負債および純資産



自己資本比率 46.7% (FY2018 4Q) → 44.6% (FY2019 2Q)

※ 「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」等を当第1四半期連結会計期間(FY2019 1Q)の期首から適用しており、前連結会計年度(FY2018)の実績については当該会計基準等を遡って適用した後の数値を記載しています。

連結キャッシュ・フロー



FY2019 業績予想

\*セグメント別営業利益予想：5億円刻みの「約」表記

(億円)	FY2018 通期実績	FY2019					
		上期		下期		通期	
		7月発表	実績	7月発表	10月予想	7月発表	10月予想
売上高	<b>3,393</b>	<b>1,830</b>	<b>1,700</b>	<b>2,010</b>	<b>2,039</b>	<b>3,840</b>	<b>3,740</b>
SE	2,271	1,250	1,128	1,350	1,471	2,600	2,600
GA	534	260	238	300	241	560	480
FT	452	240	254	260	245	500	500
PE	121	70	71	70	58	140	130
その他	12	10	7	30	22	40	30
営業利益	<b>427</b>	<b>230</b>	<b>151</b>	<b>300</b>	<b>283</b>	<b>530</b>	<b>435</b>
営業利益率	<b>12.6%</b>	<b>12.6%</b>	<b>8.9%</b>	<b>14.9%</b>	<b>13.9%</b>	<b>13.8%</b>	<b>11.6%</b>
SE	363	200*	116	250*	270*	450*	390*
GA	30	15*	4	25*	5*	40*	10*
FT	45	30*	28	25*	20*	55*	50*
PE	10	5*	10	5*	5*	10*	15*
その他	▲22	▲20*	▲7	▲5*	▲20*	▲25*	▲30*
経常利益	<b>413</b>	<b>230</b>	<b>153</b>	<b>280</b>	<b>267</b>	<b>510</b>	<b>420</b>
親会社株主に帰属する 当期純利益	<b>285</b>	<b>150</b>	<b>95</b>	<b>220</b>	<b>209</b>	<b>370</b>	<b>305</b>

注) 想定為替レート>> 1USドル=105円、1ユーロ=130円

期末配当予想>> 155円

## 最近の取り組み

SE

- ・ 洗浄装置・3種類のシリーズ、累計出荷台数7,000台を突破

GA

- ・ 中国・上海に最新デジタル印刷の情報発信拠点を開設

FT

- ・ JOLED社に出資、テレビ向けの印刷方式大型有機ELディスプレイ製造設備の販売・サービスに関する業務提携契約を締結
- ・ リチウムイオン2次電池の量産化を支援するロールtoロール塗工乾燥装置を重点顧客に納入

## ESG関連の取り組み



SUSTAINABLE  
DEVELOPMENT  
GOALS

2030年に向けて  
世界が合意した  
「持続可能な開発目標」です

当社グループは、国連が定める「持続可能な開発目標（SDGs）」を当社の企業理念にも通ずる目標だと捉えています。そのため、17のゴールのうち特に以下の6つの重点課題に積極的に取り組み、全人類が平和で豊かに暮らせる社会を目指し、地球規模で持続的に成長することに貢献します。

## &gt;&gt;6つの重点課題



● ESGをベースとしたSR（エンゲージメント）活動を強化

→非財務情報の開示内容の充実

アニュアルレポート2018年度版を8月末にリリース、SCREENグループの  
価値創造プロセスを掲載

→議決権行使担当者との対話を開始

## ■ご参考>> 主要数値の変遷

(億円)	FY2015	FY2016	FY2017	FY2018	FY2019 (予想)
売上高	2,376	2,596	3,002	3,393	3,740
営業利益	171	235	337	427	435
営業利益率(%)	7.2	9.1	11.2	12.6	11.6
総資産	2,495	2,700	3,006	3,658	—
自己資本	1,108	1,196	1,428	1,708	—
自己資本比率(%)	44.4	44.3	47.5	46.7	—
ROE(%)	12.3	16.3	18.4	18.2	—
減価償却費	48	50	53	57	83
設備投資額	66	63	82	144	310
研究開発費	139	151	177	208	230
EPS(円)	255.35	396.75	511.96	608.62	653.77



**SCREEN**